

（様式１）実施報告書

1 応募者情報

（１）応募者団体情報

団体名	千葉市
-----	-----

（２）都道府県・政令指定都市からの指定の有無及び連携（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

①都道府県・政令指定都市からの指定の有無

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

○指定の有無 有・無

○指定の内容

②都道府県・政令指定都市との具体的な連携

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

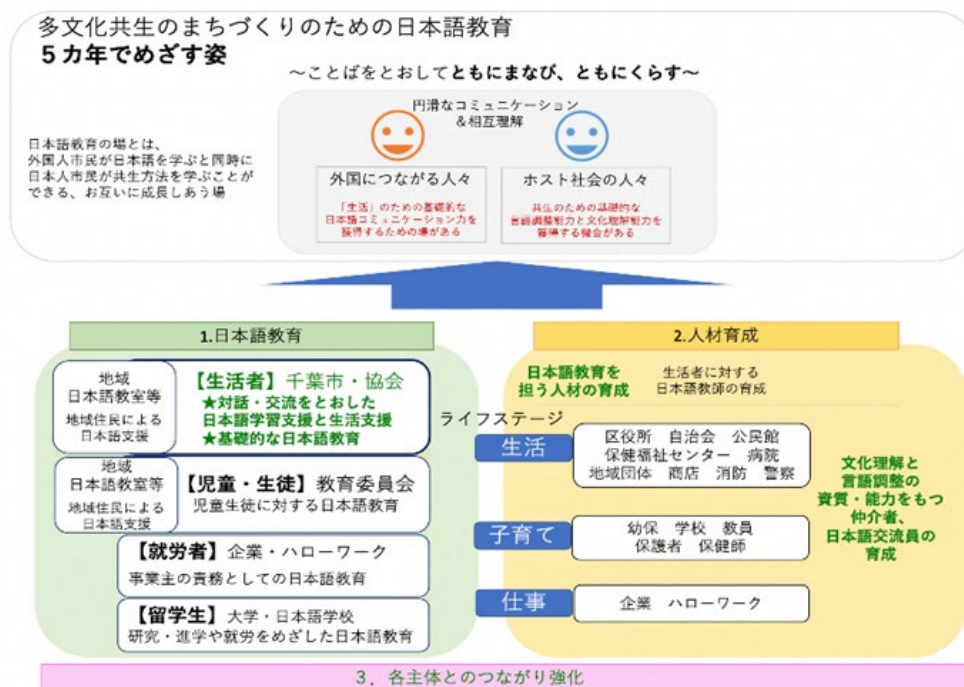
2 事業の概要

（１）全体概要

①事業の名称	地域日本語教育推進事業
②目的等	
1 目的 『生活者としての外国人』が、日本語で意思疎通できるようになることにより、社会生活及び日常生活を円滑に営むことができる」ことを目的に、以下の取組を進める。 （１）日本語学習機会の充実を図るため、ＩＣＴを含み、日本語学習に係る多様なツール・場所等を用意又は支援し、それぞれの外国人市民に合った学習方法を提供する。 （２）安定した日本語教育・日本語学習支援を継続して提供できるよう、それを担う人材を育成する。併せて、日本語学習支援者のモチベーションを保つためにも、活動の場や研修などの情報提供をする。 （３）効果的に施策に取り組むために、千葉市・千葉市国際交流協会と地域日本語教室等各主体とのつながりを強化する。地域日本語教育に関する情報発信を強化し、外国人市民が自分に合った学習方法を見つけられるようにすると同時に各主体間で情報共有できる環境を整える。 また、事業を円滑に実施するため、令和３年度に引き続き、地域日本語教育関係者で構成する千葉市地域日本語教育推進会議（総合調整会議）を設置の上、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを配置し、総合的に取り組みを進める。	

2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像

地域日本語教育関係者で構成する千葉市地域日本語教育推進会議（総合調整会議）を設置の上、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを配置し、総合的に取り組みを進めている。



(2) 令和4年度事業の概要

①事業の期間	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日（12カ月間）
②前年度までの年次計画における進捗状況（新規応募団体は記載不要）	前年度（令和3年度）は、計画の内容を概ね達成できたと判断している。 (1) 千葉市地域日本語教育推進会議（総合調整会議）を3回実施し、5年後の目指す姿及び5か年計画各年度の重点項目等の検討を行うことができた。 (2) 日本語教育を実施し、一定の受講者に教育を行うことができた。また日本語教育を通じて、課題を把握することができた。 (3) 令和4年度以降の日本語クラスを実際に担当する日本語教師や、今後、地域の日本語教室や日本語クラスを支援する日本語学習支援者の育成を実施し、将来に向けた人材の確保ができた。 (4) 各関係機関へのヒアリング・情報交換会を通じて、課題の把握や連携づくりへの一歩を進めることができた。

③前年度までの成果と課題（新規応募団体は記載不要）

（１）日本語教育

【成果】

生活者の基礎的な日本語能力、および対話力と自律学習の姿勢を養う日本語教育プログラムを提供し、学習者アンケートから高い満足度が伺えた（「満足している」「まあまあ満足している」合わせて１００％）。

【課題】

ア 受講対象者のニーズを掘り起こしする必要がある

Facebook リスティング広告や外国人集住地区へのポスティング、地域のアジア物産店や飲食店へのアプローチなど様々な周知を実施したが、定員を設定したクラスの参加者が想定よりも少ない結果となった（定員１００名に対し、実績６０名）。受講対象者が参加できる日時、単価、実施形態を検討する必要がある。

イ 日本語クラスプログラムの効果検証を行う必要がある

クラス終了後の中期的な生活や地域参画における変化までは把握できていない。

（２）人材育成

【成果】

次年度以降の日本語クラスを担う日本語教師や、今後、地域の日本語教室や日本語クラスを支援する日本語学習支援者（日本語交流員）の育成が図れた（日本語教師７名、日本語学習支援者６２名）。また、受講者から評価される内容の研修を提供することができた（「満足している」「まあまあ満足している」合わせて１００％）。

【課題】

研修修了者の中には、活動したい意思はあっても活動実践の機会が得られていない人もいる。研修修了者の活躍機会の拡充と活動実践におけるフォローアップが課題である。

また、地域社会へは、「やさしい日本語研修」を実施し、目標９０名に対し６０名という結果だったが、受講者アンケートによる満足度は高かった（「満足している」「まあまあ満足している」合わせて、１００％）。

（３）各主体とのつながりの強化

ヒアリング（日本語教室３、日本語学校５、大学４、企業５）や情報交換（全３回）を通して、課題の把握や関連機関との関係づくりの一步を踏み出すことができた一方で、今後の具体的な連携の方策が見出せなかったことが課題である。また、地域日本語教室等に対するアウトリーチ支援については、新型コロナウイルス感染症防止対策品配布を実施したが、すでに環境が整備されている教室が多く、需要が低かった。

④令和4年度の目標

令和4年度については、③の課題を踏まえた上で、以下を目標とした。

(1) 日本語教育

学習者が参加しやすくなるよう、実施時間の検討、料金設定の見直しなどを行い、多様なニーズに対応する。また、受講後にアンケートを実施し、更にニーズを探る。クラスの効果検証と改善、日本語学習の必要性啓発に活かすため、日本語クラス修了後の追跡調査を行う。

(2) 人材育成

研修修了者の活躍機会の拡充と、フォローアップによる活動の質の向上を図る。また地域社会への「やさしい日本語研修」について、対象範囲を拡大して実施する。

(3) 各主体とのつながりの強化

引き続き、情報交換会等を実施し、連携の形を探った。また、外国人協力者の発掘と各取組への参加促進により、外国人の活躍の場づくりを図る。外国人市民が地域サークル等に参加しやすくなるよう、制度を設計する。

⑤令和4年度主な取組内容

(1) 日本語学習

5年後の目標「外国につながる人々：「生活」のための基礎的な日本語コミュニケーション力を持っている。」を実現するため、以下のことを実施した。なお、令和3年度の受講者実績等から、引き続き重点対象は、在留資格「家族滞在」や「日本人配偶者」、「永住者の配偶者」等とした。

- 多様なニーズに対応できる日本語クラスを実施（保育付きクラス、新規時間帯設定）
- 料金の見直し検討（令和3年度に比べ安価に設定）
- 受講後にアンケートによるニーズ調査
- 日本語クラス修了後の追跡調査（効果検証と改善、日本語学習の必要性の啓発に活用する）

(2) 人材育成

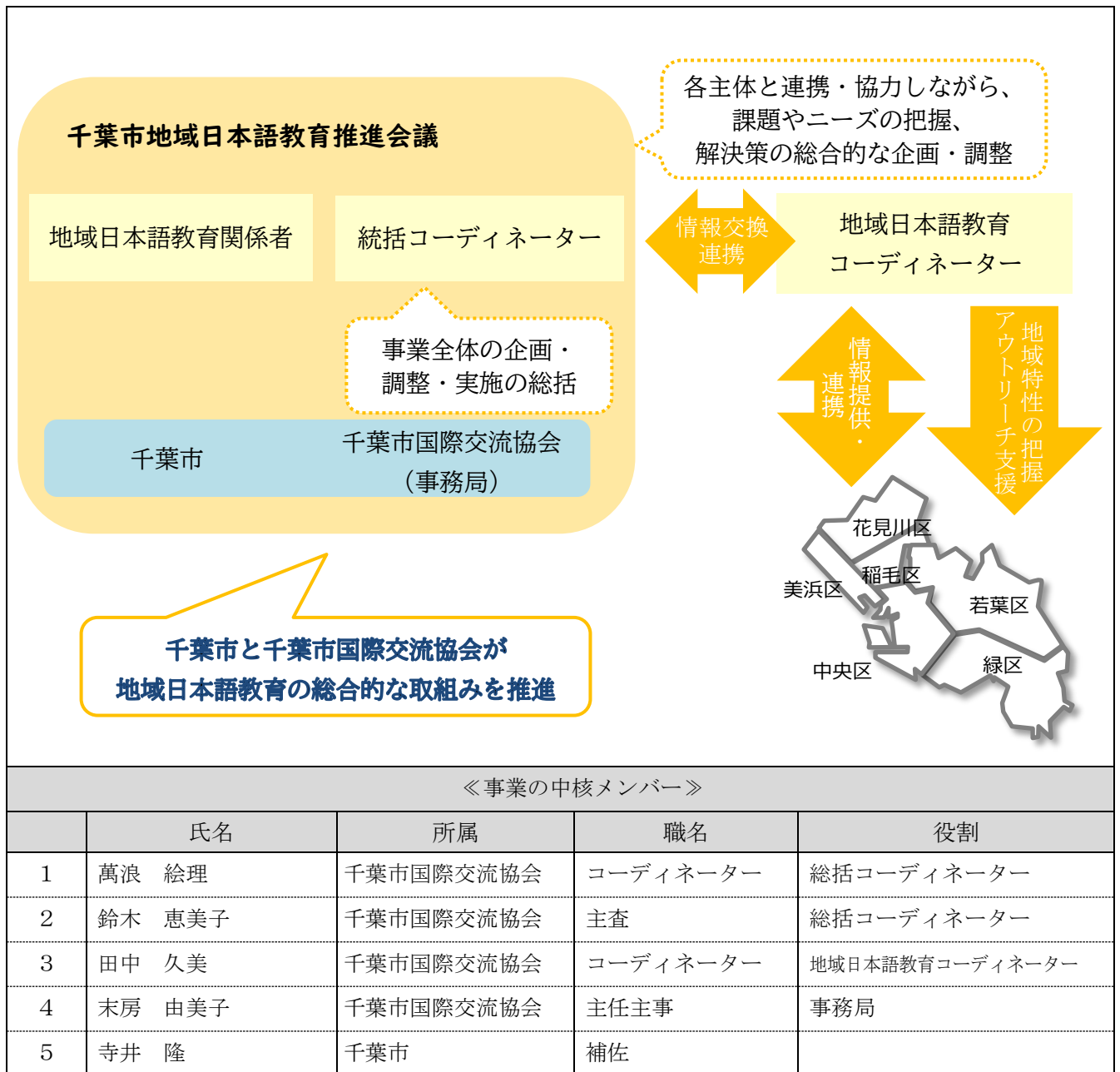
- 日本語交流員活動フォローアップ講座（研修修了者の活躍機会の拡充と活動の質の向上を図る）
- 日本語教師に対するクラス実施サポート
- やさしい日本語研修の対象拡大（学校関係者）

(3) 各主体とのつながりの強化

- 情報交換会の実施
- 地域日本語教室等に対する支援として、講師派遣等の実施
- 外国人協力者の発掘と活躍の場づくり
- 多文化共生モデル団体制度の試行（地域と外国人を繋げる団体をリスト化し紹介する体制の整備）

3 事業の実施体制

(1) 実施体制（図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター、調査計画推進コーディネーターを含めて記載してください。）



(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

- ・企業と連携し、外国人留学生が仕事をしながら日本語に慣れることができる機会を紹介した。
- ・外国籍児童を指導している学校関係者と地域で外国籍児童を支援している団体との意見交換会を初めて実施し、連携・協力を図った。
- ・大学のリソース活用的一端として、日本語教員養成課程で学ぶ大学生と生活者日本語クラス参加者との交流を実施し、今後の連携のあり方を模索した。
- ・やさしい日本語研修の実施にあたり、育児支援ネットワークや社会教育施設と連携した。

4 令和4年度の実施内容

(1) 実施内容

1. 広域での総合的な体制づくり				
【必須項目】				
(取組①) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	新倉 涼子	千葉大学	名誉教授	専門的知見
2	徳永 あかね	神田外語大学	准教授	専門的知見
3	小川 早苗	双葉外語学校	校長	日本語教育に係る意見
4	宮下 雅美	学校法人瀧澤学園 千葉モード ビジネス専門学校	副校長	日本語教育に係る意見
5	穴倉 豊明	千葉商工会議所 企画経営部 経営支援課	課長	企業・市内経済に係る意見
6	前原 寛和	社会福祉法人初穂会 ほっとスペース稲毛ペコリーノ	主任	外国人雇用(介護人材など)に係る 意見
7	大川 裕	株式会社セブン-イレブン・ジャパン		外国人雇用に係る意見
8	山口 大輔	株式会社セブン-イレブン・ジャパン		外国人雇用に係る意見
9	堀 康二	ベイトウン日本語教室		地域日本語教室に係る意見
10	小林 稔子	美浜こども日本語教室		地域日本語教室に係る意見
11	内海 豊	千葉市教育委員会事務局 生涯 学習部生涯学習振興課	課長	地域日本語教育の実務者(公民館 連携)
12	齋藤 友樹	公益財団法人千葉市教育振興財 団 公民館管理室	室長補佐	地域日本語教育の実務者(公民館 連携)
13	三浦 テュイ	外国人市民		外国人生活者に係る意見
14	市倉 秀子	千葉市国際交流課	課長	市の施策に関する意見
15	樋口 雅也	千葉市教育委員会学校教育部教 育指導課	課長	児童生徒に関する意見
②実施結果				
実施回数	3回			
実施スケジュール	令和4年7月6日、11月16日、令和5年2月8日			
主な検討項目	・令和4年度事業の経過報告、事業成果、課題 ・令和5年度事業と令和5年度以降事業の方向性			

(取組②-1) 総括コーディネーターの配置
日本語教育に関する専門的な知識及び指導経験を持つ総括コーディネーター1名と、日本語教育事業を担当してきた国際交流協会職員を総括コーディネーターとして1名、計2名を配置した。 両者は互いに連携しながら、体制整備の司令塔としての役割を担った。「千葉市地域日本語教育推進会議」とともに、また、地域日本語教育コーディネーターと連携して、地域日本語教育の総合的な企画・調整・支援を行った。
(取組②-2) 地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組
地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】 地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【()】 総括コーディネーターや関係団体と連携して、本市の地域や外国人市民の特性に対応した教育プログラムを策定し、事業を推進した。
(取組②-3) 調査・推進計画策定コーディネーターの配置
取組なし
【重点項目】
(取組③) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組
(1) 地域日本語教室、日本語学校、大学、NPO団体等との情報交換会 【名称】日本語教育関係機関意見交換会 【時期】令和4年6月8日 【対象】市内大学、市内日本語学校 【名称】日本語教室意見交換会 【時期】令和4年6月22日 【対象】地域日本語教室 【名称】外国につながる子ども支援に関する情報交換会 【時期】令和4年12月6日 【対象】地域日本語教室・支援団体、市内小学校の日本語指導教室 (2) 企業との情報交換 店舗が外国人従業員を多く抱えるセブン-イレブン・ジャパンと情報交換し、連携を検討した。 【時期】令和4年8月～令和5年2月 【内容】・千葉県内店舗担当カウンセラー及びマネージャー向けやさしい日本語、外国人雇用についてのメリットや注意点の周知 ・市内大学、日本語学校への「お仕事説明会」実施の紹介

(3) 日本語を学んだ外国人を日本語学習支援側として活躍の場を創出 協会オリジナル教材「わたしを伝える日本語」を使用して日本語を学んだ外国人に、その経験を活かして新規の学習者に対し外国人サポーターとして日本語学習支援を担ってもらえるよう、試行した。 (4) 多文化共生モデル団体登録制度の設計 外国人市民が参加しやすい(「日本語交流員講座」や「やさしい日本語研修」を受講した「仲介者」がいる)サークルや地域団体をリストアップして紹介する制度を設計した。
(取組④) 市区町村への意識啓発のための取組
取組なし
(取組⑤) 日本語教育人材に対する研修 (1) 日本語交流つなぎて講座 地域の日本語教室や千葉市国際交流協会で活動する日本語学習支援者及び各種市民団体や施設窓口において外国人との接点となる仲介者の育成を行った。なお、日本語学習支援者を「日本語交流員」とし、仲介者としての位置づけを明確にした。 【開催時期】 第1期 令和4年6月 13:30～15:30 (10時間) 第2期 令和4年10月 13:30～15:30 (10時間) 第3期 令和5年1月 13:30～15:30 (10時間) 【会場】 千葉市国際交流プラザ、オンライン 【対象】 今後、千葉市内で以下の活動を行う意思のある方 ・サークル活動、地域団体等にて外国人が参加しやすくなるように実践する ・職場や生活の場において、日本語を母語としない人と積極的に日本語でコミュニケーションをとる ・市内の日本語教室や千葉市国際交流協会の交流や日本語学習支援の活動に参加する 【参加者】 全3期の合計 63人 【講師】 徳永 あかね 氏、萬浪 絵理 氏、田中 久美 氏 【内容】 多文化共生と日本語交流促進、やさしい日本語、聴くと待つ (コミュニケーションスキル)、対話活動演習、「つなぎてとしての実践」(日本語支援の方法) (2) 日本語交流員フォローアップ講座 活動している日本語交流員を対象に、「実際に活動する際のヒント」「活動のふりかえり」などを通して、活動に関する相談やアドバイスを行った。 【開催時期】 第1回 令和4年7月 14:30～16:30 (2時間) 第2回 令和4年9月 10:00～12:00 (2時間) 第3回 令和4年11月 13:00～15:00 (2時間) 第4回 令和5年1月 13:00～15:00 (2時間)

【会場】 千葉市国際交流プラザ、オンライン 【対象】 千葉市国際交流協会「日本語交流つなぎて講座」修了者 【参加者】 全4回の合計 55人 【講師】 佐々木 綾子 氏、萬浪 絵理 氏、田中 久美 氏 【内容】 第1回テーマ「難民や避難民受入れの配慮について考える」 第2回テーマ「相談対応」 第3回テーマ「自己表現活動中心の日本語学習」 第4回テーマ「外国人と一緒にを行う地域活動」			
(取組⑥) 地域日本語教育の実施 実施するものに○ ☐ 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育 ☐ 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育			
実施箇所見込数	2か所（千葉市国際交流プラザ及びオンライン）	受講者数 (実人数)	学習者208人 交流員30人
活動1	1 初級クラス1・2 <既設> 【目標】 A1～A2レベル 地域の人とつながって生活するための基礎的な日本語能力の獲得 【実施回数】 180回（1回2時間） 初級クラス1：（1回2時間×30回）×3期 初級クラス2：（1回2時間×30回）×2期 【受講者数】 学習者35人 日本語交流員4人 【実施場所】 千葉市国際交流プラザ、オンライン 【受講者の募集方法】 ・千葉市国際交流協会HP・Facebook 及び同協会発行物での周知 ・千葉市国際交流協会登録外国人及びボランティアへのメールによる周知 ・学校や生活に係る手続きを行う保健福祉センター等の公共施設、市内外国食材店等にチラシ掲示及び配布 ・千葉県国際交流センターFacebook などその他関係機関等のSNSでの周知 【内容】 来日したばかりの人や、日本に暮らしていても日本語を学ぶ機会がなかった人を対象に、自己表現しながら自己表現の能力をつけて、地域とつながって生活できるよう支援する。 オリジナル教材「わたしを伝える日本語」、日本語学習サイト「つながるひろがるにほんごでのくらし」などを活用し、日常生活に密着したトピック（自己紹介、家族・仲間、好きなこと、地域の活動、防災等）に沿って、話したり、書いたりできるようにする。また、カリキュラムの一部として、日本語交流員等と交流することにより、日本語運用能力を高めるとともに、相互交流を図った。		

	【開始した月】 5月 【講師】 7人（うち、日本語教師 7人） ※「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり
活動 2	2 初級クラス（保育付き） <新設> 【目標】 A1～A2レベル 地域の人とつながって生活するための基礎的な日本語能力の獲得 【実施回数】 60回（1回2時間） 初級クラス1：（1回2時間×30回）×1期 初級クラス2：（1回2時間×30回）×1期 【受講者数】 学習者11人 日本語交流員2人 【実施場所】 千葉市国際交流プラザ 【受講者の募集方法】 ・千葉市国際交流協会HP・Facebook 及び同協会発行物での周知 ・千葉市国際交流協会登録外国人及びボランティアへのメールによる周知 ・学校や生活に係る手続きを行う保健福祉センター等の公共施設、市内外国食材店等にチラシ掲示及び配布 ・千葉県国際交流センターFacebook などその他関係機関等のSNSでの周知 【内容】 在留資格「家族滞在」や「日本人配偶者」、「永住者の配偶者」等の外国人が参加しやすくなるため、小さな子供を育児している人も参加できる保育付きのクラスを実施した。主な内容は「はじめての日本語クラス1・2」に同じ。 【開始した月】 5月 【講師】 2人（うち、日本語教師 2人） 【関係機関との連携】 【機関名】 神田外語大学 【連携内容】 初級クラス2参加者と当該大学の日本語教員養成課程在籍の学生による日本語活動実践のための交流（大学施設見学・案内、および対話交流） ※「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり
活動 3	3 読み書きクラス <既設> 【目標】 漢字の基礎がわかり、簡単な文章の読み書きができる。 【実施回数】 20回（1回 2時間） 10回×2期 【受講者数】 学習者17人 【実施場所】 千葉市国際交流プラザ

	【受講者の募集方法】 ・ 千葉市国際交流協会HP・Facebook 及び同協会発行物での周知 ・ 千葉市国際交流協会登録外国人及びボランティアへのメールによる周知 ・ 学校や生活に係る手続きを行う保健福祉センター等の公共施設、市内外国食材店等にチラシ掲示及び配布 ・ 千葉県国際交流センターFacebook などその他関係機関等のSNSでの周知 等 【内容】 漢字学習、作文演習 【開始した月】 6月 【講師】 2人（うち、日本語教師2人） ※「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり
活動4	4 生活日本語クラス <新設> 【目標】 生活に身近な施設等で必要な日本語表現を体験を通して知る 【実施回数】 20回（第1・3期1回 90分、第2期1回 3時間） 8回×2期、4回×1期 【受講者数】 学習者16人 日本語交流員6人 【実施場所】 千葉市国際交流プラザ、図書館、ショッピングセンター、駅等 【受講者の募集方法】 ・ 千葉市国際交流協会HP・Facebook 及び同協会発行物での周知 ・ 千葉市国際交流協会登録外国人及びボランティアへのメールによる周知 ・ 学校や生活に係る手続きを行う保健福祉センター等の公共施設、市内外国食材店等にチラシ掲示及び配布 ・ 千葉県国際交流センターFacebook などその他関係機関等のSNSでの周知 等 【内容】 「買い物」「電車に乗る」「病院に行く」などの生活場面で必要な実用的な日本語の習得を支援する。「つながるひろがる にほんごでの暮らし」を活用したオンラインでの自律学習と、日本語交流員等との対面での体験学習を通じて、実践的に学ぶ。 【開始した月】 6月 【講師】 3人（うち、日本語教師3人） ※「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり
活動5	5 グループ学習クラス <新設> 【目標】 自律的な日本語学習の方法を知る。日本語学習開始や継続きっかけとなる。 【実施回数】 48回（1回 2時間、1回 3時間） 2時間×12回×3期 3時間×12回×1期

	【受講者数】 学習者 98 人 日本語交流員 18 人 【実施場所】 千葉市国際交流プラザ 【受講者募集方法】 ・ 千葉市国際交流協会HP・Facebook 及び同協会発行物での周知 ・ 千葉市国際交流協会登録外国人及びボランティアへのメールによる周知 ・ 学校や生活に係る手続きを行う保健福祉センター等の公共施設、市内外国食材店等にチラシ掲示及び配布 ・ 千葉県国際交流センターFacebook などその他関係機関等のSNSでの周知 ・ facebook リスティング広告 等 【内容】 来日したばかりの人や、日本に暮らしていても日本語を学ぶ機会がなかった人のうち、「はじめての日本語クラス」や「読み書きクラス」など長期のクラスに連続で参加できない人が参加しやすくなるよう、期間の短い日本語学習の機会を提供した。 日本語教師が参加者のニーズやレベルに合わせてグループ構成と学習目標を提案し、参加者は個別の自己学習やグループメンバーとの協働学習を進めた。日本語交流員が学習者の日本語使用を促進した。 【開始した月】 5 月 【講師】 5 人（うち、日本語教師 5 人） ※「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり
活動 6	6 にほんごで はなすかい <既設> 【目標】 テーマに沿って自分のことが語れ、他者の話が理解できる。 お互いの文化背景や日本語力に配慮しながら対話できる。 【実施回数】 34 回（1 回 1 時間） 【受講者数】 学習者 31 人 日本語交流員 10 人 【実施場所】 オンライン 【受講者募集方法】 ・ 千葉市国際交流協会HP・Facebook 及び同協会発行物での周知 ・ 千葉市 HP での周知 ・ 千葉市国際交流協会登録外国人及びボランティアへのメールによる周知 ・ 学校や生活に係る手続きを行う保健福祉センター等の公共施設、市内外国食材店等にチラシ掲示及び配布 ・ 千葉県国際交流センターFacebook などその他関係機関等のSNSでの周知 等 【内容】 生活場面で必要な実用的な日本語の習得を支援した。各回のテーマに基づき、日本語交流員を含めた小グループで会話や情報交換をすることにより、日本語運用能力、社会

	文化能力の養成を図った。 【開始した月】 5月 【講師】 3人（うち、日本語教師3人） ※「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有
(取組⑦～⑭) その他の取組	
(取組⑨) (1)「やさしい日本語」「多文化理解」研修 外国人等の日本語習得を促進し、相互理解のための資質を養うため、外国人住民や職員が多い自治会や企業等向けに、「やさしい日本語」「多文化理解」研修を実施した。企業向けの実施では約160人がオンラインで出席する定例会議の一部として行った。また、対象者に学校関係者を含むことを検討した結果、日本語指導教室を設置している小学校で実施した。 【開催時期】 第1回 令和4年9月 12:20～12:35（15分間） 第2回 令和4年10月 13:30～14:30（1時間） 第3回 令和4年11月 13:30～15:30（2時間） 第4回 令和5年2月 18:30～20:00（1.5時間） 第5回 令和5年2月 14:00～16:00（2時間） 第6回 令和5年3月 14:00～16:00（2時間） 【会場】 オンライン、高浜第一小学校、稲毛保健福祉センター、稲毛公民館、宮崎公民館 【対象】 市民 【参加者】 計6回 合計237人 【講師】 萬浪 絵理 氏、田中 久美 氏 【内容】 千葉市の外国人概要、やさしい日本語、文化理解 (2) 日本語学習アドバイジング 日本語学習希望者の相談に対応し、相談者の希望やライフステージに鑑み、将来にわたって戦略的に日本語を身につけられるよう、アドバイスした。また、アドバイジングについて、より多くの外国人に知ってもらうため、広報を実施した。 【実施時期】 令和4年4月～令和5年3月 【会場】 千葉市国際交流プラザ、千葉市国際交流協会HP・Facebook 及び同協会発行物での周知 【対象】 市民 【アドバイス対応者】 鈴木恵美子 総括コーディネーター、田中久美 地域日本語教育コーディネーター	

(取組⑩) 事業広報・成果報告 千葉市国際交流協会ホームページ・Facebook などを利用し、わかりやすく且つ広く事業の広報及び成果報告を行った。なお、日本語教育の成果報告については、好事例などを発信して、その効果を周知し、普及促進を図った。
2. 市区町村の日本語教育の取組への支援
(取組①) 市区町村を支援して実施する日本語教育
地域日本語教室への研修支援を行った。 【名称】出張講座・研修 【目標】地域日本語教室等の希望に応じて研修講師を探し、有用な研修プログラムを用意することにより、研修支援を行う。 【実施回数】4回（1回 2時間） 【参加者数】44人 【実施場所】オンライン、美浜保健福祉センター、千葉市国際交流プラザ、美浜区ボランティアセンター 【出張講座・研修希望団体募集方法】 【内容】 ・習熟度が異なる人が混在するクラスの運営方法、日本語支援のスキル向上、文法知識 ・オンラインでの日本語指導の方法 ・年少者に対する日本語指導の方法 【開始した月】9月 【講師】5人 【関係機関との連携】 【機関名】千葉大学、神田外語大学、NPO 法人青少年自立援助センター 【連携内容】講師派遣
(取組②) 取組1以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育
取組なし

5. 主要な取組の実施状況

令和4年4月	
5月	日本語学習アドバイジング（～令和5年3月） 地域日本語教育の実施（～令和5年2月） Facebookなどで随時広報・報告（～令和5年3月）
6月	情報交換会（日本語教育関係機関） 意見交換会（日本語教室） 人材研修（日本語交流つなぎで講座第1期）
7月	総合調整会議（第1回） 人材研修（フォローアップ講座第1回）
8月	
9月	人材研修（フォローアップ講座第2回） やさしい日本語・多文化理解講座（第1回） 地域日本語教室への研修支援（第1回）
10月	人材研修（日本語交流つなぎで講座第2期） やさしい日本語・多文化理解講座（第2回） 地域日本語教室への研修支援（第2・3回）
11月	総合調整会議（第2回） 人材研修（フォローアップ講座第3回） やさしい日本語・多文化理解講座（第3回） 地域日本語教室への研修支援（第4回）
12月	情報交換会（子ども支援に関する）
令和5年1月	人材研修（日本語交流つなぎで講座第3期） 人材研修（フォローアップ講座第4回）
2月	総合調整会議（第3回） やさしい日本語・多文化理解講座（第4・5回）
3月	やさしい日本語・多文化理解講座（第6回） 下旬 事業終了、実績報告書の提出

5. 評価と検証

1. 令和4年度の計画の評価と検証方法
(1) 日本語教育 学習者が参加しやすくなるよう、実施時間の検討、料金設定の見直しなどを行い、多様なニーズに対応する。また、受講後にアンケートを実施し、更にニーズを探る。クラスの効果検証と改善、日本語学習の必要性啓発に活かすため、日本語クラス修了後の追跡調査を行う。 (2) 人材育成 研修修了者の活躍機会の拡充と、フォローアップによる活動の質の向上を図る。また地域社会への「やさしい日本語研修」について、対象範囲を拡大して実施する。 (3) 各主体とのつながりの強化 引き続き、情報交換会等を実施し、連携の形を探った。また、外国人協力者の発掘と各取組への参加促進により、外国人の活躍の場づくりを図る。外国人市民が地域サークル等に参加しやすくなるよう、制度を設計する。
【令和4年度の目標達成に向けた指標（定量評価・定性評価を含む。）】 1 指標 【指標1：定量評価目標】 ＜新規＞日本語クラスの参加者数【取組⑥-活動2、活動4、活動5】 ○目標値 74人（前年度実績 なし） ○実績値 125人 →目標を大きく上回り、達成できた。 【指標2：定性評価目標】 ＜新規＞日本語クラス参加者の日本語レベル到達度、及び自律学習・協働学習の姿勢 ○目標値 75%（前年度実績 なし） ○実績値 78.2% （「学んだ日本語を生活の中で使ってみた」「日本語を使うことに自信がついた」「日本語で話せることが増えた」「日本語の基礎的な表現について知識が増えた」「いろいろな人と交流しながら学ぶ方法がわかった」「新しいツールや学習方法を知った」という項目に対する「かなり」「とても」の割合の平均値である。） 定性評価：全体として教室内で自律学習・協働学習の姿勢を育むように留意した結果、参加者が能動的に他の参加者と声を交わし、助け合いながら学習に取り組む場面が多く見られるようになった。また、特にグループ学習クラスにおいては、希望する学習活動を各自が決め、自分のペースで学習を進めることを日本語教師や交流員が支援する方法をとった結果、自律学習能力の伸びが確認できた。 【指標3：定性評価目標】 日本語クラス修了者の追跡調査による満足度

○目標値 75%（前年度実績 なし）

○実績値 100%（←2名の結果。電話ききとり調査継続中）

→調査は、フォームによるアンケート回答者のうち、協力が得られる人に電話インタビューで行った。日本語教育への満足度は電話による半構造化インタビューによって測る計画であったが、「修了者」に該当する人への電話インタビューは2件にとどまったため、次年度に持ち越して行う。

【指標4：定性評価目標】

日本語交流員フォローアップ講座参加者の満足度

○目標値：75%（前年度実績 なし）

○実績値：100%

→目標を大きく上回り、達成できた。

【指標5：定量評価目標】

多文化ウェルカム団体登録制度の参加団体調査件数

○目標値：60件（前年度実績 なし）

○実績値：222件回答

→目標を大きく上回り、達成できた。

【指標6：定量評価目標】

外国人協力者の人数

○目標値：3人（前年度実績 なし）

○実績値：1人

→外国人協力者を試行的に配置するのに適当なクラスが少なかったため、人数は1人とどめた。

試行により、連続的な参加は協力者の日程調整が難しい場合が多いことや、クラス開始時まで学習希望者の人数、媒介語、希望学習内容の情報が不確実であることが課題とわかった。

以上の実績を千葉市地域日本語教育推進会議（総合調整会議）に結果報告し、「おおむね目標を達している」と評価を得た。

2 検証方法

- ・指標1、5、6については数字を集計。
- ・指標2、3、4はアンケート及び追跡調査を実施。
- ・以上の指標を年度末に千葉市地域日本語教育推進会議（総合調整会議）に結果報告し評価を得た。

2. その他、令和4年度事業の評価と検証方法
【各取組の指標及び検証方法（定量評価・定性評価）】 1 指標 【取組⑤】日本語交流員講座 （定量評価）参加者数 目標値：30人 （前年度実績：62人） 実績値 63人 ※定員を満たすことを目標とする。 （定性評価）参加者の満足度 目標値：75% （前年度実績：なし） 実績値：100% （検証方法）事務局による人数集計とアンケート実施・結果検証 →参加者数は目標を上回り、参加者満足度は100%となり、おおむね達成できた。 【取組⑥-活動1、活動3、活動6】日本語クラス （定量評価）参加者数 目標値：126人（前年度実績：60人） 実績値：83人 （定性評価）参加者の満足度 （前年度実績：なし） 実績値：100% （検証方法）事務局による人数集計とアンケート実施・結果検証 →参加者数は目標値に達しなかった。コロナの影響もあったためか特に年度前半のクラスと、オンラインクラスは、参加者数は少なかった。参加者満足度は100%となり、おおむね達成できた。 【取組⑨】「やさしい日本語」「多文化理解」研修 （定量評価）参加者数 目標値：60人 （前年度実績：60人） 実績値：237人 （定性評価）参加者の満足度 （前年度実績：なし） 実績値：99% （検証方法）事務局による人数集計とアンケート実施・結果検証 →参加者数は目標を上回り、参加者満足度は99%となり、おおむね達成できた。

6 検証を踏まえた課題と今後の展望

1. 検証を踏まえた課題と今後の展望
（1）検証を踏まえた課題 上記検証に加え、本市の日本語学習支援が必要な対象者を算出するために、令和3年度に実施した千葉市外国人市民アンケートより、「日本語を学びたい人」×日本語を話すことが「まったくできない」「不自由することが多い」のクロス集計を行った結果、約6,000人が対象となることが推察された。 これらの人々に日本語学習環境を整えるためには、公益財団法人千葉市国際交流協会による各種日本語クラスの展開だけでは対象人数を補うことができないため、オンライン学習の一層の活用、地域日本語教室の支援や日本語学校等との連携強化、日本語学習支援を行う人材の育成が不可欠である。 （2）今後の展望 上記課題に対応するために、地域における日本語教育を担う各主体の役割分担や体制整備を進める。 ○千葉市国際交流協会が主催する日本語クラスは、A1までレベルの日本語学習環境を保証するとともに、

日本語教師、日本語学習支援者が協働して実施する日本語教室活動の1つのモデルとなる。

○オンライン学習の一層の活用に取り組む

○地域日本語教室が学習支援活動を継続するための支援策の検討・実施

○日本語学習支援を支えていく人材の育成と活躍の場の創出

2. その他、課題と困難な状況への対応方法等

(1) 課題と困難な状況への対応方法

日本語教育の参加者の増加が課題であったため、学習者が参加しやすいように、さまざまな時間での日本語クラスの実施や、料金の見直しを行った。また、長期クラスに参加しにくい人でも参加しやすく、クラス内のみならず、自分で学習を進めることを目標とした「グループ学習クラス」も実施した。

人材育成では支援者の活動を安定化させるために、フォローアップ研修や地域日本語教室への出張を行ったところ、参加者の満足度は高かった。

【参考写真一覧】

取組番号	写真名
1-⑥-1	初級クラス
	

1-⑥-5

グループ学習クラス



1-⑤-1

日本語交流つなげて講座



2-①

出張研修



【参考資料一覧】

取組番号	資料名	NEWS 掲載